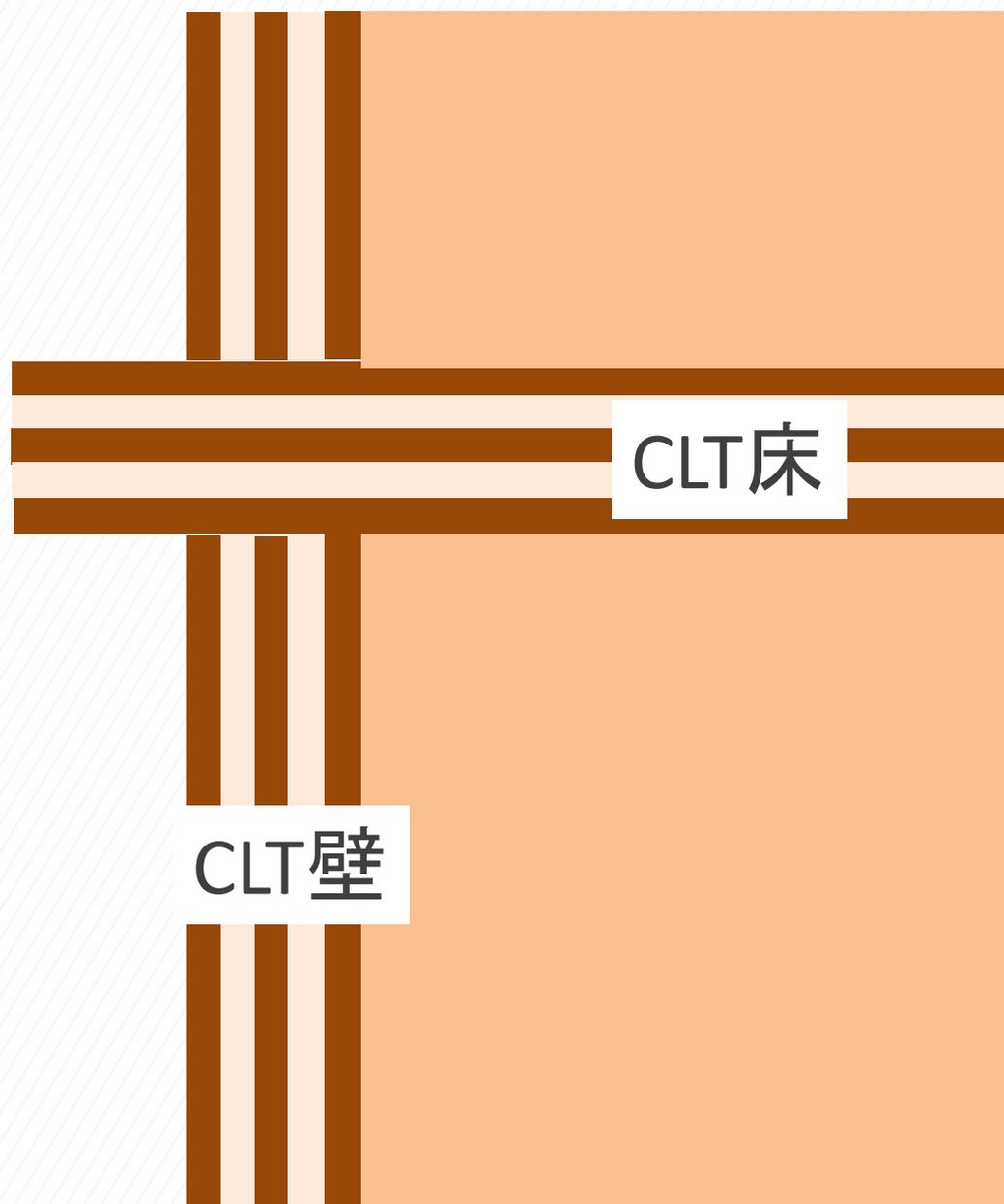


CLT床パネルの外層ラミナの方角と余長の有無がめり込み強度値に与える影響

(京大生存研) ○安部 総一、五十田 博、北守 顕久、
(日本システム設計) 佐藤 基志

はじめに

CLTパネル工法の課題



構造部材にCross Laminated Timber(CLT)を用いた建築工法をCLTパネル工法という。

- ・ CLT床とCLT壁のめり込み挙動の把握が十分にできているとは言い難い。
- ・ 合理化・簡易化の必要性がある。

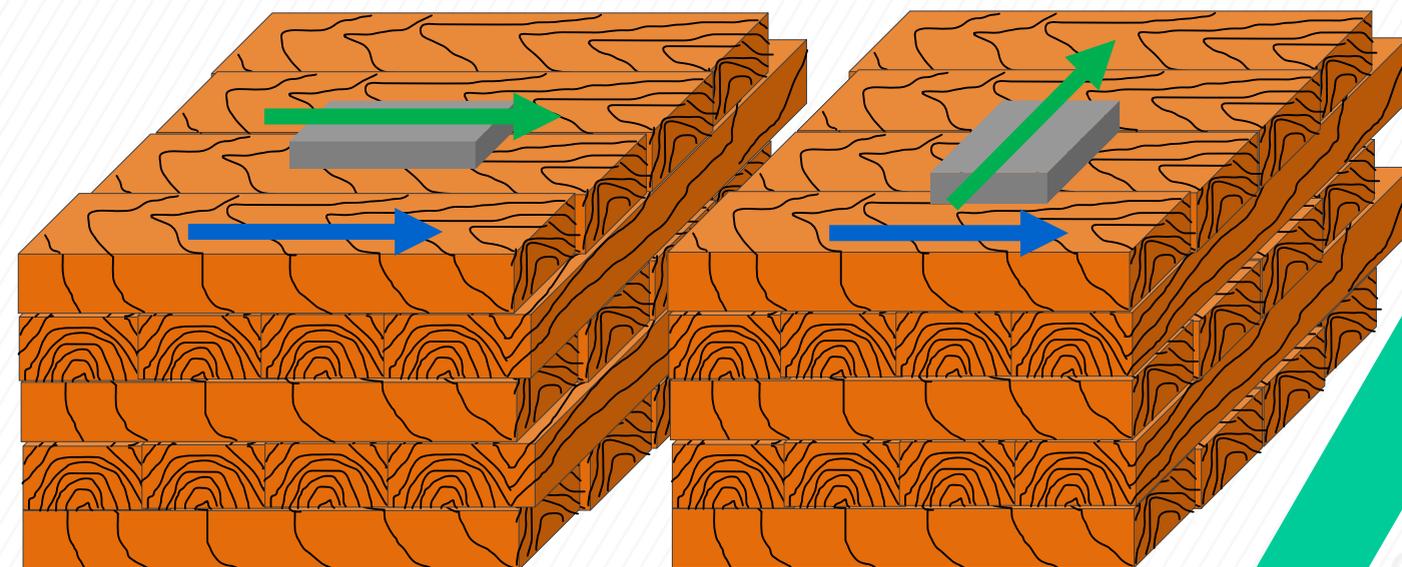
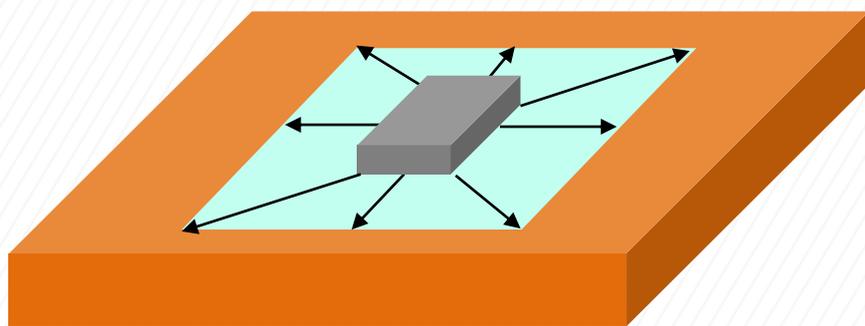
CLTの壁が床の外層ラミナに対して垂直の時、平行の時の比較。
配置場所によってどのように強度に影響が出るか。

はじめに

CLTめり込み強度特性値に与える影響因子

・ 余長効果・・・めり込みが発生している場所付近のめり込みの強度特性値に与える効果のこと。

・ CLT外層ラミナの向き・・・CLTのめり込み強度特性値に与える影響が大きい。



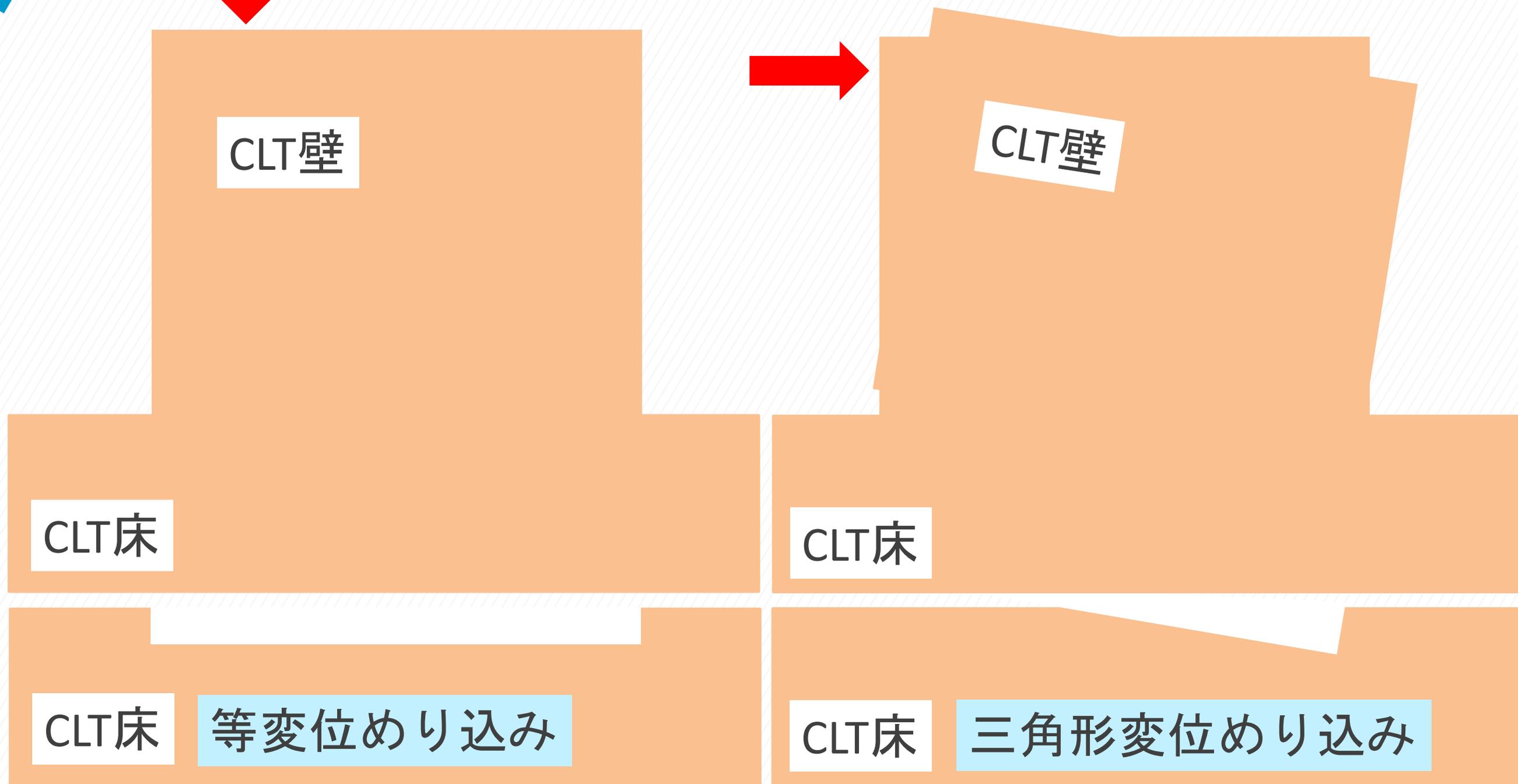
余長効果を持つ範囲

↑ 外層ラミナの向き

↑ 加圧板の向き

CLTのめり込みは余長効果と外層ラミナの向きによる影響が大きい

はじめに 研究の目的



研究目的:荷重の種類、余長の範囲、壁CLTの外層ラミナの向きを考慮した壁CLT-床CLTのめり込み性状を把握すること